

私が白浜に行っていた翌年ですが、大阪毎日小学生新聞に「日本一速記小学校」と載ったり、また本紙に「一分間に二百五十字、巢立つ学童が速記術の快記録」として載ったりしたことがあったのですが、それはこの英生さんが指導されたものでした。その後英生さんは東京で小学校に勤めながら、日本大学の夜間部に通っていたのでした。これは私の親戚にあたる松永東さん（文部大臣になられた人）が東京市会の市会議長をしておられるころ、お願いして小学校に勤めるようにしたのでした。大学の講義は全部速記で書いていました。すばらしいものでした。大学卒業後は郷里に帰り、和歌山県議会の速記者になっていましたが、その速記がまたすばらしいもので、私は「全国一、全国の速記者、これにならえ！」と書いていたのでした。大学ノートの一頁を四つに分けて、それにペンでぎっしり速記してあるのです。その当時、和歌山県の知事さんは早口で有名な人だったそうですが、それをきれいに書きとめ、ノートいっぱい速記しているのですが、誠にすばらしいものでした。日本の速記はペンでは書けないといわれていたのですが、中根式はペンで書くのを原則としているのです。英生さんは身をもってこれを証明し実に素晴らしいものでした。また歌が上手で時々朝日新聞の短歌の欄に入選して載ることがあったほどでした。早く亡くなったのは惜しいことでした。

山崎さんご兄弟の一番下は清之さんです。若い時病気され、毎日寝ているので退屈されたのでしょう、